

開設予定

「社会イノベーションユニット」の概要

～このような人を育てます～

三重県には、北部地域の石油化学分野を中心とした工業、南部地域で高い実績を上げている農林水産業など、地域の強みと特性があります。本研究科に新設する「社会イノベーションユニット」では、工学やバイオの専門知識を活用し、地域の特性を生かしながら、新規起業、第二創業あるいは画期的な新政策を通して「地域にゼロから1を創造できる社会起業家（ソーシャル・アントレプレナー）」となりうる人材を育てます。

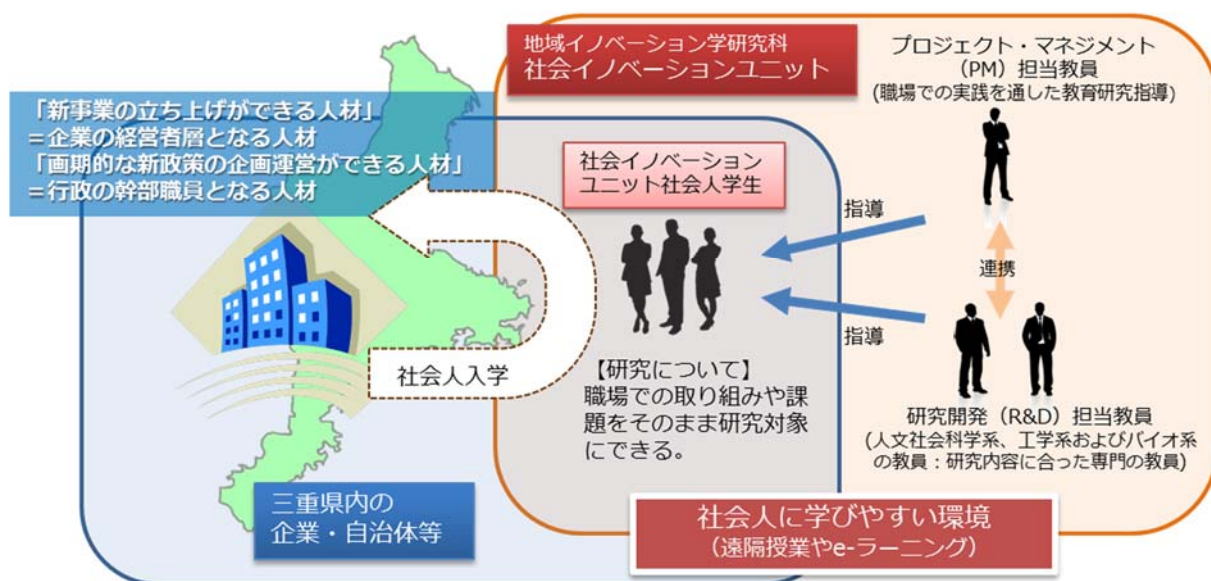
1. 地域イノベーション学研究科博士前期課程 社会イノベーションユニットとは

三重大学大学院地域イノベーション学研究科では、平成21年の発足以来、地方の産業界が求める「プロジェクト・マネジメントができる（問題解決力のある）研究開発系人材」の育成を通して、地域の発展を支える取り組みを続けてきました。本研究科が発足して以来、リーマンショックの余波や東日本大震災により、地域は大きく翻弄されてきました。最近になって政府の経済政策が奏功し、日本全体としては経済が上向いているものの、地方への波及効果を十分に生かし切れていないのが現状です。さらに、地域にとって待ったなしの状況にあるのは、少子高齢化に伴う「消滅可能性都市」問題です。平成24年に日本創成会議・人口減少問題検討分科会が発表した提言「ストップ少子化・地方元気戦略」によれば、人口の移動が現状のまま推移した場合、2040年までに三重県の29市町のうち約半数の14市町は人口の再生産が不可能な「消滅可能性都市」になるとされています。これらの地域は三重県南部に集中しており、この中には観光資源に恵まれた鳥羽市、日本有数の漁獲高を誇る志摩市なども含まれています。三重県南部の市町が自治体として存立できなくなれば、三重県そのものの存立も大きく脅かされ、いずれは我が国全体の衰退につながることは明らかなです。このような状況を打破するためには、若年人口の流出を止め、若者が自身の手で地域を守ることを可能にする施策を直ちに講じ、「地域の自立」を目指さなければなりません。これを実現するためには、地域にイノベーションを起こせる人材を教育し、科学技術と社会の変革により、地域の企業や行政において新しい価値を創り出す必要があります。

そこで、地域イノベーション学研究科では、博士前期課程（修士2年課程）の機能を強化し、若い学生の学びとともに、社会で活躍されている皆様の学び直しを通して、「**地域にゼロから1を創造できるソーシャル・アントレプレナー**」人材の養成を新たに行いたいと考え、平成29年度を目標にして、本研究科博士前期課程に「社会イノベーションユニット」の新設を計画しております（次ページ図参照）。

「地域にゼロから1を創造できるソーシャル・アントレプレナー」とは、文理融合型の教育と研究を通じて、「地域社会のニーズの分析ができ、地域経済の動向を正しく認識する人文社会科学的なものの見方・考え方」と「工学およびバイオ系の幅広い知識を基礎にした問題解決力」を同時に身につけた人材です。具体的には、「地域の特性を生かした新事業の立ち上げができる人材」や「地域を活性化する画期的な新政策の企画とマネジメントができる人材」であり、企業の経営者層や行政の幹部職員になる能力を有する人材を指します。本研究科では、社会人の皆様にも学びやすい教育カリキュラムとeラーニングや遠隔授業環境を新規に構築し、新ユニットにおける社会人の皆様の自らの学びを通して、地域の活性化に貢献したいと考えています。

【社会イノベーションユニットのイメージ】



2. 入試について

本研究科博士前期課程では、従来一般選抜のみを実施しておりましたが、社会イノベーションユニットでは、時代のニーズに応え、勉学意欲旺盛な社会人の皆様が無理なく本研究科で学べるようにするため、社会人特別選抜も実施する予定です。

博士前期課程各ユニットの選抜方法

ユ ニ ッ ト 名	選 抜 方 法
工学イノベーション バイオイノベーション	一般選抜
社会イノベーション	一般選抜 社会人特別選抜

上記の記述内容については、予定であり、変更する場合があります。